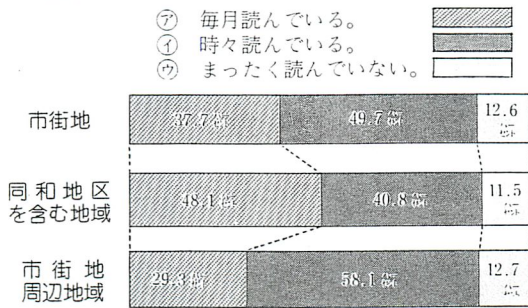
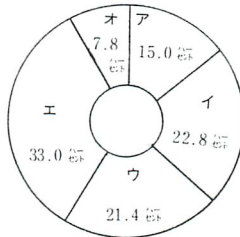


《Ⅰ図》あなたは「同和問題シリーズ」を読んでいますが。



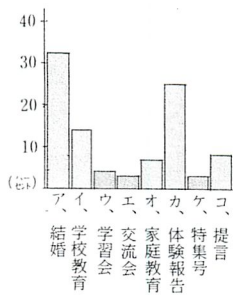
《Ⅱ図》「毎月読んでいる」のは、どのような理由からですか。

ア=学校、社会教育、企業などで同和教育推進の任にあるから
イ=いろいろの研修会に参加して関心を持ったから
ウ=差別に対する怒りを持っており、今後も差別をなくするために役だてたいから
エ=仕事上でも個人的にも、差別をなくするために役だち、その参考にしたいから
オ=その他の理由



《Ⅲ図》シリーズ中、印象に残っているものはなんですか。

ア=結婚に関するもの
イ=学校での取り組みや人権尊重
ウ=同和地区と地区外の学習会
エ=交流会
オ=家庭教育
カ=体験報告
キ=企業での学習
ク=理論学習的なもの
ケ=特集号
コ=提言、意見発表



家庭でも話し合おう

今回の意識調査により、多くの市民が結婚や体験記のものに深い関心をもっていることもわかり、心情的な面から同和問題を徐々に理解してもらっていることがわかりました。しかし、単なる同情やあわれみにとどまるべきではありません。そのためには、学校教育

や理論学習的なものにも目を向けてほしいと思います。そして、家庭教育の中や、小グループの話し合いの場にも同和問題をぜひ取り上げてほしいものです。全市民がこのシリーズを通して同和問題に対する正しい理解を深めていただくよう切望してやみません。

同和問題シリーズ編集委員

山家 延行

毎月一回本紙に掲載している「同和問題シリーズ」をさらに充実するため、同シリーズがどのように読まれているのか、この八月に意識調査をしました。調査は市街地、周辺地域、同和地区を含む地域、それぞれ二地域の同和教育推進協議会の計六百人のみなさんをお願いしました。回収率は九一・七割（五百五十人）でした。集計の概要は次のとおりです。

同和問題シリーズ

▷ 64

同和問題シリーズ どう読まれているか

9割近くの人が読む

「もっと掘り下げて」の注文も

600人から意識調査

《問一》あなたは「同和問題シリーズ」を読んでいますか。

Ⅰ図のとおり、九割近くの市民に読まれていることがわかりました。同和地区を含む地域では、約半数の人が毎月読んでいます。

次に、「毎月読んでいる」理由はⅡ図にあるように、⑦と④が半数を超えており、多くの市民が差別をなくするための学習資料として活用しているのがわかります。

《問二》シリーズ中、印象に残っているもの二つに○印をしてください。

これについては、Ⅲ図のようによらつきが多いことは当然であると考えられます。学校における取

《問三》シリーズについて、率直なご意見などを自由にお書きください。

多くの方から、賛否両論、積極論、消極論など、次のような貴重な意見が出ました。

▽スペースが狭い。今の倍ぐらいにしてほしい。また絵、詩、スローガンなどもたくさん盛り込んでもらう。 (男、29歳)

▽同和問題は一口で語れるものではない。断片的な意見を数人で提言するよりも、二人ぐらいにして内容をもっと深く掘り下げていったほうがいいし、同和問題が市民にどうかかわっているか、わかりやすく取り上げるべきです。 (女、54歳)

が市民の意識変革になるのではないかと思います。難しい理論や講演などはなかなか理解できませんが、市報ならあらゆる立場から広く掲載されるので取り組みやすい。 (女、48歳)

り組みや人権尊重」の比率が予想外に低いように感じますが、いかがでしょうか。